

創校記念式 資料

温故知新＝ふるきをたずね、あたらしきをしる

「論語」という孔子（昔の中国の政治家、教育者）と弟子の会話を記録したものの中にある言葉。「子曰、温故而知新、可以為師矣」＝「子曰く、故きを温ねて新しきを知れば、以って師と為る可し」（いわく、ふるきをたずねて あたらしきをしれば、もってしとたるべし）

訳 「孔子先生はおっしゃいました。古くからの伝えを大切にしながら新しい知識を得て行くことができれば、人を教える師となることができるでしょう」

大沢野中学校の歴史を知り、皆さんがどのように生活していけばよいか考えましょう。

大沢野中学校の開校

昭和58年（1983年）4月6日（水）。大沢野町立大沢野中学校と大沢野町・富山市学校組合立大久保中学校が合併して開校。合併するときには反対意見があったり、校名をどうするか、校歌・校章をどうするか、制服はどうかなどの問題があった。校歌は大沢野中学校のもの、校章は大久保中学校のもの、夏服は大久保中学校のもの、冬服は大沢野中学校のものとなった。

校舎は真っ白な外壁で「ホワイトスクール」（白亜の殿堂）と呼ばれた。当時としては先進的な「LL教室」（LLは、ランゲージ・ラボラトリーの略語。音声やビデオなどの機器を使って外国語を学ぶ教室）や、広い廊下、ランチルームなど画期的な設備だった。

外には、野外ステージ（美術室の北側にある丸いところと芝生）や、すもう広場（友情の池と畑があるところに土俵が5つあった）があった。ちなみに、「友情の池」は昭和63年度に完成している。グラウンドには300mトラックがあり、トラックの中は芝生だった。



昭和58年度卒業アルバムから（第1回卒業生）

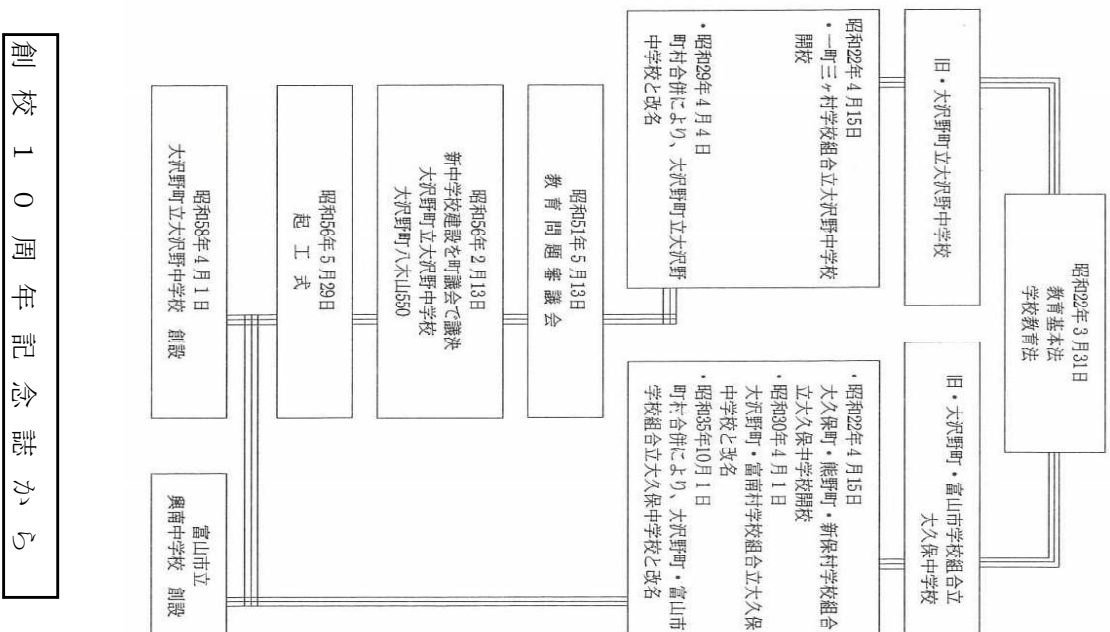


ホワイトフェスティバル



昭和58年度卒業アルバムから（第1回卒業生）

一、大沢野中学校の創立までの経過



創 校 1 0 周 年 記 念 誌 か ら

六、開校式並びに落成式

(一) 式 辞

春光、天地にあまねく今日この日、関係各位田教の御臨席を賜り、大沢野中学校の開校式並びに落成式を挙行いたしますことは、まことに御回慶にたえないところであります。

かえりみまば、昭和五十二年六月、大沢野町教育問題審議会の皆様は、深遠なる審議と将来にわたる教育構想をもとに、統合中学校建設のご答申をいただきました。以来、町議会議員の皆様御熱心な審議と町民の皆様のご理解ご協力をいただきながら建設、開校に向かつて事業を進めてまいりました。構想から七年、着工から二年を経て、ここに大沢野中学校の誕生を迎えさせていただきました。ここに関係各位に対し厚くお礼を申し上げます。また、計画、事業着工につきましては、とりわけ富山県教育委員会の懇切なご指導ご配慮に対し深く感謝を申しあげます。

本日より大沢野中学校は新しい歴史をつくる歩みを始めることとなります。もとより、学校・校舎が歴史をつくりだすわけでありません。生徒の皆さん、教職員の皆さん、ご父兄の皆さん、そして地域の皆さんがこの校舎に魂を入られ、歴史をつくるものだと信じます。学校は地域から遊離するものであってはいけません。地域社会の皆さんから「心のふるさと」として親しまれるものでなければなりません。学校教育は本来、人間尊重の精神にまとづいて一人ひとりの生徒の知・徳・体の調和のとれた発達を

終わりに、今日、この日を迎えることができましたのもひとえに、町民の皆様のご協力と園及び県当局をはじめとする来賓各位のご指導並びに工事関係者の献身的な協力の賜であります。ここに、遠路いとわずご臨席くださいました来賓各位に重ねて厚くお礼申し上げますとさせていただきます。

大沢野町長 佐野 浩

昭和五十八年四月六日



創校十周年記念体育大会



創校20周年記念誌から



創校30周年記念誌から

